

# ふじみサラダボール子育て情報



「自我の芽生え」  
令和7年5月14日号  
板橋富士見幼稚園



## イヤイヤ期も子育ての醍醐味

1歳半を過ぎる頃から「わがまま」を言うことが増えてきたように感じませんか。子育ての仲間同士では、「うちの子イヤイヤ期が始まったの」と、話題になることが多いかと思います。今まで関心もなかったことに突然こだわりを持ち始めたり、「いやいや」する回数が増えたりと、子育てと生活のサイクルが狂い始めるのも、この時期です。自己の欲求が膨らみ始め、色々なことに興味や関心を示すようになります。言葉も一語文から二語文へと広がり、2歳を過ぎる頃から、更に自分の思いを押し通そうと我を張り続けて、親を手こずらせ始めます。これまでは拒否の気持ちを、簡単な言葉や首振りなどで穏やかに抵抗する姿を見せていましたが、大声で拒否したり、駄々をこねたり、大泣きしたりと、あの手この手と徹底的に対抗する姿勢に変わってくることもあります。

今まで何でも言うことを聞いていい子だった我が子が、次第にあまりいい子ではなくなってきてしまった…と悩まれ始め、色々な本を読んで頭では分かっているつもりでも、解決の糸口が見つからずに、自分の子育て間違っているのでは、と心配する方も出てくる時期です。

さて、親御さんはこんな時どうされていますか。ここでこれを許したら、わがままになってしまうのでは と思い、強い口調で強要したり、叱って言うことを聞かせようとしたりしていませんか。

実はこのようなギクシャクした関係は、発達上どの子も一度は経験し通過しなくてはなりません。「自我の芽生え」というとても大事な過程で、社会性に向けて順調に成長している証なのです。日々大変かもしれませんが、少しだけ角度を変えて「葛藤を共に乗り越えていこう」と考えてみませんか。

他者から「こうしなさい」と言われて、素直に「ハイ」と言えることだけが良いわけではありません。自分の思いを外に出せず、人に従順する依存傾向が強くなることは、逆に発達や成長を妨げている可能性もあります。

イヤイヤ期に自分の思いをしっかりと相手に伝える手段を覚え、あの手この手と経験していくことは“自分が自分である”ということに気づき始めた、大変喜ばしい姿です。自分の思いを押し通そうと、いろいろな方法でぶつかってくることは、大切な知的経験であることを知っておいてください。



子どもが遊んでいる時は、その遊びの深さを予測し、そろそろやめさせたいと思ったら少し早めに声がけするようにしましょう。そして、親御さんの困っている気持ちを丁寧に伝えていくように心がけてください。

子どもと葛藤することは、子育ての醍醐味です。いつも「どうして言うことを聞かないの」と叱りつけることより、我が子が自分との葛藤を乗り越え、この知恵者め…と絶賛してみたいかがででしょうか。

【写真：大切に育ててきたオタマジャクシが 小さなカエルの姿になったので、

園庭の蓮の葉の上に放してお別れをしました。カエルさん、大きくなってね！！】